

(別添)

## 令和6年度鳥取県インテリア・ライフ分野商品の 欧州向け海外販路開拓支援業務仕様書

### 1 業務の名称

令和6年度鳥取県インテリア・ライフ分野商品の欧州向け海外販路開拓支援業務(以下「委託業務」という。)

### 2 委託業務の目的

鳥取県内の日常生活を豊かにする付加価値のある工芸品、家具、アパレル、玩具、服飾品、雑貨等の商品(以下「インテリア・ライフ分野商品等」という。)を製作や又は販売する鳥取県内事業者の欧州市場への展開促進を図るために、海外現地での展示販売及び越境ECの手法により、消費者への直販売(B to C)を行うとともに、インテリア・ライフ分野商品等を取扱う海外に拠点を有する流通事業者(卸、小売り、商社、代理店、ディストリビューターを含む。以下「流通事業者」という。)向けの販路(B to B)も開拓することにより、持続的な海外取引のための仕組みを構築する。

この過程を通じて併せて、インテリア・ライフ分野商品等事業者の今後の海外販路開拓活動に資する経験を得る機会及び有用な情報を提供する。

### 3 委託期間

契約締結日から令和7年3月31日まで

### 4 予算額

金10,000,000円(消費税及び地方消費税を含む。)とし、受注者はこの金額の範囲内で委託業務を実施する。

### 5 委託業務の内容

#### (1) 鳥取県内のインテリア・ライフ分野商品等のB to C及びB to Bの海外販路の開拓

以下の事項を実施し、鳥取県内のインテリア・ライフ分野商品等について、欧州現地での展示販売と越境ECによるオンラインでの販売プロモーションを効果的に組み合わせ、消費者への直販売(B to C)を行うとともに、流通事業者向けの販路(B to B)の開拓も行い今後の継続取引が行われる仕組みを構築する。

#### ア 欧州現地での販売プロモーション

欧州において、鳥取県内のインテリア・ライフ分野商品等を現地の流通事業者を中心とした集客が見込める展示会・店舗等において、販売プロモーションを実施する。

#### イ 越境ECサイトでの販売プロモーション

越境ECサイトに鳥取県内のインテリア・ライフ分野商品等を掲載し、欧州向けに販売プロモーションを実施する。

越境ECサイトへの鳥取県内のインテリア・ライフ分野商品等の情報の掲載は、鳥取県内のインテリア・ライフ分野商品等から提出を受けた商品等に関する画像データ、説明文、パンフレット等を基に、受注者が行うこと。

#### ウ 欧州現地デザイナーとのコラボレーション

鳥取県産の素材と欧州現地デザイナー・工芸品関係者等とのマッチングを行い、コラボレーション等によって、商品を製作する。

#### エ 「とっとりデザイン」のショールーム

上記アとは別に、鳥取県内のインテリア・ライフ分野商品等を活かした「とっとりデザイン」のショールームを欧州の展示会・店舗等で開催し、展示販売を実施する。

#### オ 欧州の流通事業者の鳥取県への招聘

欧州のインテリア・ライフ分野商品等の流通事業者に鳥取県内のインテリア・ライフ分野商品等の買い付けを行っていただくため、同流通事業者を鳥取県に招聘する。

(2) インテリア・ライフ分野商品等事業者への海外販路開拓等に関するフィードバック

以下の商品等に関する情報を鳥取県内事業者へフィードバックする。

ア (1)の実施に係る、販売実績等のデータ。

イ (1)の実施及びアンケート等を通じて得られた流通事業者、消費者等の属性、評価、意見等

ウ 上記ア、イ等に基づき、今後の改善や検討すべき展開等に関する提案。

(3) 海外販路の開拓及び越境ECサイトに関するセミナーの開催

ア 受注者は、鳥取県内のインテリア・ライフ分野商品等事業者向けに、上記(1)、(2)の説明及び実施する内容等に関するセミナー(以下「セミナー」という。)を開催する。

イ セミナーの開催時期は令和6年6・7月を目途とし、開催方法、内容については発注者及び受注者(以下「双方」という。)の協議により決定する。

ウ セミナーの内容について後日、見逃し配信を行えるように受注者は発注者にセミナーの動画データを提供する。

## 6 権利義務の譲渡等の禁止

受注者は、委託業務に係る契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、若しくは承継させ、又はその権利を担保の目的に供することができない。ただし、あらかじめ発注者の承認を得た場合は、この限りでない。

## 7 再委託の禁止

(1) 受注者は、発注者の承認を受けずに、再委託をしてはならない。

(2) 発注者は、次のいずれかに該当する場合は、(1)の承認をしないものとする。ただし、特段の理由がある場合はこの限りでない。

ア 再委託の契約金額が委託料の上限額の50パーセントを超える場合

イ 再委託する業務に委託業務の中核となる部分が含まれている場合

## 8 守秘事項等

(1) 受注者は、委託業務における成果物(中間成果物を含む。)を、当該業務においてのみ使用することとし、これらを蓄積し、又は他の目的に使用してはならない。

(2) 受注者は、委託業務の履行に当たって知り得た秘密を漏らしてはならない。

(3) 受注者は、委託業務に従事する者並びに7の規定により委託業務を再委託する場合の再委託先及びそれらの使用人に対して、(1)及び(2)の規定を遵守させなければならない。

(4) 発注者は、受注者が(1)から(3)までの規定に違反し、発注者又は第三者に損害を与えた場合は、受注者に対し、契約の解除又は損害賠償の請求をすることができるものとする。

(5) (1)から(4)までの規定は、委託期間の満了後又は契約解除後も同様とする。

## 9 目的外使用等の禁止

受注者は、委託業務に必要な情報等について、この契約以外の目的で使用し、又は第三者に提供してはならない。

## 10 特許権等の使用

受注者は、特許権、実用新案権、意匠権、商標権その他の法令に基づき保護される第三者の権利(以下「特許権等」という。)の対象となっている材料、履行方法等を使用するときは、その使用に関する

一切の責任を負わなければならない。ただし、発注者がその材料、履行方法等を指定した場合において、この仕様書に特許権等の対象である旨の明示がなく、かつ、受注者がその存在を知らなかったときは、発注者は、受注者がその使用に関して要した費用を負担する。

#### 1.1 委託業務の調査等

発注者は、必要があると認めるときは、受注者の委託業務の履行状況について調査し、発注者の職員を立ち合わせ、受注者に報告を求めることができる。受注者は、これに従わなければならない。

#### 1.2 仕様書と委託業務内容が一致しない場合の修補義務

受注者は、委託業務の履行内容がこの仕様書又は双方協議の内容に適合しない場合において、発注者がその修補を請求したときは、これらに適合するよう必要な修補を行わなければならない。

#### 1.3 事故等発生時の対応義務

- (1) 受注者は、事故等の発生により委託業務の履行に支障を生じ、又は生ずるおそれがあると認めるときは、直ちにその状況を発注者に報告しなければならない。
- (2) 受注者は、直ちに事故等の原因を調査し、早急に復旧措置を講ずるとともに、対応策、再発防止策等について発注者と協議する。

#### 1.4 損害賠償

受注者は、その責めに帰する理由により委託業務の実施に関し発注者又は第三者に損害を与えたときは、その損害を賠償しなければならない。

#### 1.5 責任の制限

双方の責めに帰することのできない理由により、受注者がこの契約による義務の全部又は一部を履行することができないときは、受注者は当該部分についての義務の履行を免れ、発注者は当該部分について委託料の支払義務を免れる。

#### 1.6 完了報告及び検査

- (1) 受注者は、委託業務を完了したときは、その日から14日以内又は令和7年3月31日のいずれか早い日までに完了報告書を発注者に提出しなければならない。
- (2) 発注者は、(1)の完了報告書を受領した日から10日以内に委託業務の完了を確認するための検査を行う。
- (3) 発注者は、(2)の規定に基づき検査を行った結果、委託業務を合格と認めるときは、委託料の額を確定し、その旨を受注者に通知する。
- (4) (3)の委託料の確定額は、委託業務の実績額と委託料の上限額のいずれか低い額とする。
- (5) 受注者は、(2)の検査に合格しないときは、発注者の指示に従って遅滞なくこれを修補し、発注者の検査を受けなければならない。この場合においても(2)から(4)までの規定を準用する。

#### 1.7 委託料の支払

- (1) 受注者は、1.6(3)の通知を受領した後、発注者に委託料を請求する。
- (2) 発注者は、(1)に規定する正当な請求書を受領した日から30日以内に委託料を受注者に支払

う。

- (3) 発注者が正当な理由なく(2)に規定する期間内に支払を完了しないときは、受注者は、遅延日数に応じ未払金額に対し、政府契約の支払遅延防止等に関する法律(昭和24年法律第256号)第8条第1項の規定に基づき財務大臣が決定する率で計算した額の遅延利息を発注者に請求することができる。
- (4) 5の実施に当たり必要な経費は、原則として委託料に含むものとし、発注者は受注者に対して委託料の上限額の範囲内で支払うものとする。

## 18 概算払

- (1) 17の規定にかかわらず、発注者が必要と認めた場合は、発注者は別添「概算払支払計画書」に基づき、受注者に委託料を概算払することができる。
- (2) 受注者は、16(3)の委託料の額の確定の結果、既に支払を受けた委託料に不用額が生じたときは、発注者の指示に従い、その不用額を発注者に返還しなければならない。
- (3) 受注者は、(2)により委託料の返還を命ぜられた場合において、発注者の指定する納入期限までに返還しないときは、未納金額に対し納入期日の翌日から返還の日までの日数に応じ、鳥取県会計規則(昭和39年鳥取県規則第11号)第120条の規定により計算した額の遅延利息を発注者に支払わなければならない。

## 19 違約金

受注者は、委託期間内に委託業務を完了できなかつたときは、委託料の上限額から既完了部分(受注者が既に委託業務を完了した部分のうち、発注者が引渡しを受ける必要があると認めたものをいう。)に対する相当額を控除した額に対し、遅延日数1日につき、鳥取県会計規則第120条の規定により計算した額を、違約金として発注者に支払わなければならない。

## 20 委託業務の中止

発注者は、必要があると認めたときは、委託業務の履行を一時中止させることができる。

## 21 追完請求権

- (1) 発注者は、成果物の引渡し後、当該成果物がこの仕様書又は双方協議の内容に適合しないものであるときは、受注者に対して相当な期間を定めて発注者の指示した方法により無償で補修、代替物の引渡し又は不足物の引渡しによる履行の追完を請求することができる。
- (2) (1)の規定により、その期間内に履行の追完がないときは、発注者は受注者に対して代金の減額を請求することができる。
- (3) (1)及び(2)の規定は、発注者が受注者に対して行う損害賠償の請求及び契約の解除を妨げるものではない。

## 22 契約の解除

- (1) 発注者は、必要があるときは、この契約を解除することができる。
- (2) 発注者は、受注者が次のいずれかに該当するときは相当の期間を定めてその履行の催告をし、その期間内に履行がないときはこの契約を解除することができる。ただし、その期間を経過した時における債務の不履行がこの契約及び取引上の社会通念に照らして軽微であるときは、この限りでな

い。

ア 正当な理由なく、始期を過ぎても委託業務に着手しないとき。

イ 委託業務を遂行する見込みがないとき又は委託業務を委託期間内に履行する見込みがないと認められるとき。

ウ 21(1)の履行の追完がなされないとき。

エ この契約に違反したとき。

(3) 発注者は、受注者が次のいずれかに該当するときは、直ちにこの契約を解除することができる。

ア 委託業務の履行不能が明らかであるとき。

イ 委託業務の履行を拒絶する意思を明確に表示したとき。

ウ 委託業務の一部の履行が不能である場合又は委託業務の一部の履行を拒絶する意思を明確に表示した場合において、残存する部分のみでは契約をした目的を達することができないとき。

エ このほか、受注者がその債務の履行をせず、発注者が(2)の催告をしても契約をした目的を達するのに足りる履行がされる見込みがないことが明らかであるとき。

オ 受注者又はその代理人若しくは使用人がこの契約に関して、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和22年法律第54号)第3条に違反する行為又は刑法(明治40年法律第45号)第96条の6若しくは同法第198条に規定する行為をしたと認められるとき。

カ 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定する暴力団(以下「暴力団」という。)又は暴力団の構成員(以下「暴力団員」という。)であると認められるとき。

キ 次に掲げる行為の相手方が暴力団又は暴力団員であることを知りながら当該行為を行ったと認められるとき。

(ア) 暴力団員を役員等(受注者が法人の場合にあつてはその役員及び経営に事実上参加している者を、受注者が任意の団体にあつてはその代表者及び経営に事実上参加している者をいい、非常勤を含む。以下同じ。)とすることその他暴力団又は暴力団員を経営に関与させること。

(イ) 暴力団員を雇用すること。

(ウ) 暴力団又は暴力団員を代理、あっせん、仲介、交渉等のために使用すること。

(エ) いかなる名義をもってするかを問わず、暴力団又は暴力団員に対して、金銭、物品その他財産上の利益を与えること。

(オ) 暴力団又は暴力団員を問題の解決等のために利用すること。

(カ) 役員等が暴力団又は暴力団員と密接な交際をすること。

(キ) 暴力団若しくは暴力団員であること又は(ア)から(カ)までに掲げる行為を行うものと知りながら、その者に物品の製造、仕入れ、納入その他業務を下請等させること。

(4) 発注者が(2)及び(3)の規定によりこの契約を解除した場合は、受注者は、違約金として委託料の上限額の10分の1に相当する金額を発注者に支払わなければならない。

(5) 発注者は、(1)の規定により契約を解除する場合、契約解除の一月前までに文書により受注者に通知する。この場合において、受注者に損害を及ぼしたときは、受注者はその損害の賠償を請求することができる。なお、賠償額は、双方協議して定める。

## 2.3 賠償の予定

受注者が22(3)オに該当する行為をしたと発注者が認めたときは、発注者が契約を解除するかどうかを問わず、受注者は、賠償金として委託料の上限額の10分の2に相当する金額を発注者に支払

わなければならない。

#### 2.4 個人情報の保護

- (1) 受注者は、委託業務を遂行するための個人情報の取扱いについては、別記「個人情報・死者情報の取扱いに係る特記事項」(以下「特記事項」という。)を遵守しなければならない。
- (2) 受注者は、7の規定により委託業務を発注者の承認を受けて第三者に再委託する場合は、当該受託者に対して、特記事項を遵守させなければならない。

#### 2.5 専属的合意管轄裁判所

委託業務に係る訴訟の提起については、鳥取県鳥取市を管轄する裁判所をもって専属的合意管轄裁判所とする。

#### 2.6 仕様書遵守に要する経費

この仕様書を遵守するために要する経費は、全て受注者の負担とする。

#### 2.7 その他

この仕様書に定めのない事項又はこの仕様書について疑義の生じた事項については、双方協議して定める。

## 別記

### 個人情報・死者情報の取扱いに係る特記事項

#### (基本的事項)

第1条 乙は、この契約による業務（以下「業務」という。）を行うに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう個人情報（個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）第2条第1項に規定する個人情報をいう。以下同じ。）を適正に取り扱わなければならない。

#### (秘密の保持)

第2条 乙は、業務に関して知り得た個人情報を他に漏らしてはならない。

2 乙は、業務に従事している者又は従事していた者（以下「従事者」という。）が、当該業務に関して知り得た個人情報を他に漏らさないようにしなければならない。

3 前2項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても、同様とする。

#### (目的外保有・利用の禁止)

第3条 乙は、業務の目的以外の目的のために、業務に関して知り得た個人情報を保有し、又は利用してはならない。

#### (第三者への提供の禁止)

第4条 乙は、甲の承諾があるときを除き、業務に関して知り得た個人情報を第三者に提供してはならない。

#### (再委託等の禁止)

第5条 乙は、業務を第三者（乙の子会社（会社法（平成17年法律第86号）第2条第1項第3号に規定する子会社をいう。）を含む。）に委託し、又は請け負わせてはならない。ただし、あらかじめ甲が書面により承諾した場合は、この限りでない。

2 前項ただし書の場合、乙は、この契約により乙が負う個人情報の取扱いに関する義務を前項の第三者（以下「再委託先」という。）にも遵守させなければならない。この場合において、乙は、再委託先における個人情報の取扱いを管理し、監督しなければならない。

#### (個人情報の引渡し)

第6条 業務に関する甲乙間の個人情報の引渡しは、甲が指定する方法、日時及び場所で行うものとする。

2 乙は、業務を行うために甲から個人情報の引渡しを受けるときは、甲に対し当該個人情報を預かる旨の書面又は電磁的記録を交付しなければならない。

#### (複製・複写の禁止)

第7条 乙は、甲の承諾があるときを除き、業務において利用する個人情報（業務を行うために甲から引き渡され、又は乙が自ら収集した個人情報をいう。以下同じ。）を複写し、又は複製してはならない。

#### (安全管理措置)

第8条 乙は、業務において利用する個人情報を取り扱うに当たり、甲と同等の水準をもって、当該個人情報の漏えい、滅失、毀損又は不正な利用（以下「漏えい等」という。）の防止その他の当該個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じなければならない。

#### (事故発生時における報告)

第9条 乙は、業務において利用する個人情報の漏えい等の事故が生じ、又は生ずるおそれがあることを知ったときは、当該事故の発生に係る乙の責めに帰すべき事由の有無にかかわらず、直ちに甲に対し報告し、その指示に従わなければならない。

2 甲は、業務において利用する個人情報の漏えい等の事故が発生した場合は、必要に応じて当該事故に関する情報を公表することができる。

#### (個人情報の返還等)

第10条 乙は、この契約又は業務の終了時に、業務において利用する個人情報を、直ちに甲に対し返還し、又は引き渡すものとする。

2 前項の規定にかかわらず、この契約又は業務の終了時に、甲が別に指示したときは、乙は、業務において利用する個人情報を廃棄（消去を含む。以下同じ。）するものとする。この場合において、乙は、個人情報の廃棄に際し甲から立会いを求められたときは、これに応じなければならない。

3 乙は、業務において利用する個人情報を廃棄する場合は、当該個人情報が記録された電磁的記録媒体の物理的な破壊その他当該個人情報の判読及び復元を不可能とするために必要な措置を講じなければならない。

4 乙は、業務において利用する個人情報を廃棄したときは、廃棄した日時、担当者、方法等を記録するとともに、甲の求めに応じて、当該記録の内容を甲に対し報告しなければならない。

(定期的報告)

第11条 乙は、甲が定める期間ごとに、この特記事項の遵守状況について書面で報告しなければならない。第5条第1項ただし書により再委託先がある場合も、同様とする。

(監査)

第12条 甲は、業務において利用する個人情報の取扱いについて、この特記事項の遵守状況を検証し、又は確認するため、乙（再委託先があるときは、再委託先を含む。以下この条において同じ。）に対して、実地における検査その他の監査を行うことができる。

2 甲は、前項の目的を達するため、乙に対して、必要な情報を求め、又は業務に関し必要な指示をすることができる。

(損害賠償)

第13条 乙の責めに帰すべき事由により、乙が個人情報の保護に関する法律、鳥取県個人情報保護条例（令和4年鳥取県条例第29号）又はこの特記事項の規定の内容に違反し、又は怠ったことにより、甲に対する損害を発生させた場合は、乙は、甲に対して、その損害を賠償しなければならない。

2 乙又は乙の従事者（再委託先及び再委託先の従事者を含む。）の責めに帰すべき事由により、業務において利用する個人情報の漏えい等の事故が発生した場合は、乙は、これにより第三者に生じた損害を賠償しなければならない。

3 前項の場合において、甲が乙に代わって第三者の損害を賠償したときは、乙は遅滞なく甲の求償に応じなければならない。

(契約解除)

第14条 甲は、乙が個人情報の保護に関する法律、鳥取県個人情報保護条例又はこの特記事項の規定の内容に違反していると認めたときは、この契約の全部又は一部を解除することができるものとする。

(死者情報の取扱い)

第15条 乙が業務を行うために死者情報（鳥取県個人情報保護条例第2条第1項第6号に規定する死者情報をいう。以下同じ。）を利用する場合における当該死者情報の取扱いについても、第2条から前条までと同様とする。

(注) 甲は発注者、乙は受注者をいう。



(別添)

## 概算払支払計画書

支払時期	支払金額
令和 年 月	金 円
令和 年 月	金 円
令和 年 月	金 円
合 計	金 円

※支払時期及び支払金額の割合については、委託契約の締結時に決定する。